

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	老人福祉施設管理事業						担当部	健康福祉部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	長寿介護課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	長寿福祉係						
	総合計画 分野別計画	主目的	3 保健福祉		13 高齢者福祉		4 高齢者の健康の保持と増進を図る									
		副目的														
	予算区分	款	3		項	2		目	1		大	6		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例外														
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	1 %		委託	99 %			助成	0 %						
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	高齢者の在宅生活の継続を図るため、在宅支援施設である老人福祉センター等の保守管理を行う。														
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・第2老人福祉センター(各々) 指定管理者により管理を行う 第1老人福祉センター…NPO法人ワーカーズコープ 第2老人福祉センター…コニックス(株) 施設の保守管理(自家用電気工作物1回/隔月、健康器具3回/年、 消防設備2回/年、空調設備4回/年)、団体利用者の送迎(230日程度/年)、 各種の講座(約250回程度)を実施。 利用証の発行、備品購入事務、年間委託料の関係事務を実施。 ・岩崎・ふれあいデイサービスセンター(各々) 指定管理者である小牧市社会福祉協議会により管理を行う 施設の保守管理(清掃随時、消防設備2回/年、自動ドア4回/年、 ボイラ4回/年)、利用者の送迎(毎日)、介護サービスの提供(毎日)を実施。 備品購入事務、年間委託料の関係事務を実施。 <p>【直接経費の主な内訳】 老人福祉センター管理委託料 107,223千円 岩崎デイサービスセンター管理委託料 3,155千円 ふれあいデイサービスセンター管理委託料 1,560千円</p>														
受益者負担	デイサービスセンターは介護サービスの利用料として1割負担															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	60,672	111,442	112,664	119,417	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	531	531	531	531
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	61,203	111,973	113,195	119,948
	対前年比		%		182.9	101.0	105.9	
財源	一般財源		千円	59,477	110,248	109,570	114,135	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	1,726	1,725	3,625	5,813	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	開館日数 (第1・第2老人福祉センター)	日	目標		294	—	—
実績				292	304	305	
開所日数 (岩崎・ふれあいデイサービス)	日	目標		293	—	—	294
		実績		291	292	294	
利用人数 (老人福祉センター)	人	目標		—	—	—	—
		実績		55,807	132,404	152,905	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	事故件数 (老人福祉センター)	人	目標		—	0	0
実績				—	1	0	
事故件数 (岩崎・ふれあいデイサービス)	人	目標		—	0	0	0
		実績		—	0	0	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	老人福祉センターの利用人数は、年々増加している。 老人福祉センター及びデイサービスセンターが各指定管理者により事故なく、適正に管理運営された。
		事業実施における課題等	老人福祉センターの利用者が多く、2施設において機器不足及び待ち人数が多数ある。
		事業を縮小・廃止したときの影響	老人福祉センター及びデイサービスセンターが閉鎖され、同施設の利用ができなくなり、高齢者の余暇や生きがい活動の場及び利用者が馴染みのあるデイサービスセンターがなくなることになる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	今後の高齢社会において、住み慣れた地域社会の中で引き続き生活することを支援する必要がある。また、将来的には高齢化率の伸びを考え、新たな老人福祉センターが必要と考える。	
	改善案等	デイサービス職員が研修へ参加することにより、介護に対する知識の習得や技術の向上を行う。また、第3老人福祉センターの整備を検討する。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。